

## DSHEng5 装置通信エンジン (GEM+GEM300)

ソフトウェア・パッケージ

デモプログラム内部説明書

## エンジン起動とメッセージ送受信処理 (要約)

2019年8月

株式会社データマップ

**[取り扱い注意]**

- この資料ならびにソフトウェアの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本説明書に記述されている内容は予告なしで変更される可能性があります。
- Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- ユーザーが本ソフトウェアの使用によって生じた遺失履歴、(株) データマップの予見の有無を問わず発生した特別損害、付随的損害、間接損害およびその他の拡大損害に対して責任を負いません。

**【改訂履歴】**

番号	改訂日付	項目	概略
1.	2019 月.8 月	初版	
2.			
3.			
4.			

DSHEng5 装置通信エンジン (GEM+GEM300).....	1
ソフトウェア・パッケージ.....	1
1. 概要.....	1
2. デモプログラムとDSHEng5 エンジンの起動.....	2
2. 1 起動処理メイン - formMain.csでの処理.....	2
2. 2 setup_rsvd_var_and_rcv_messageID() - 予約変数の設定と、受信1次メッセージの登録.....	4
2. 2. 1 class_SetRsvdVar.set_reserved_variable() - 予約変数の処理.....	5
2. 2. 2 set_SECS2_msg() - APPが受信し処理したいメッセージの設定.....	6
2. 3 pollクラスのpollスレッドDSHEng5 からの受信処理の準備.....	7
3. 1次メッセージ受信とメッセージのポーリング.....	8
3. 1 受信のためのポーリングの準備.....	9
3. 2 pollクラスの構成と機能 (poll.cs).....	9
3. 3 poll_event_handler() - メッセージ受信イベントハンドラー.....	10
3. 4 poll_thread() - 受信ポーリングスレッド.....	11
3. 5 do_poll_msg_proc() - 受信メッセージ処理関数.....	12
3. 6 s1f15_proc() - 受信メッセージ処理例.....	13
3. 7 メッセージ受信クラスがサポートされていないメッセージの処理と応答処理.....	14
4. 1次メッセージの送信.....	16
4. 1 標準サポートメッセージの送信.....	16
4. 1. 1 ブロックモード - S6F11 の送信.....	17
4. 1. 2 非ブロックモード - S6F11 の送信.....	18
4. 2 非標準メッセージの送信.....	19
5. デモプログラムの終了、DSHEng5 エンジンの終了.....	22

## 1. 概要

デモプログラムについて制御の流れを説明します。

実際にアプリケーションプログラム作成をするための参考用ドキュメントになります。

内容としては、DSHEng5 が提供するクラスの使用に関する以下の事項について説明します。

1. DSHEng5 通信エンジンの起動
2. 相手装置（ホスト）からのメッセージの受信  
DSHEng5 標準サポートメッセージ / 非サポートメッセージ
3. 相手装置（ホスト）への1次メッセージの送信  
DSHEng5 標準サポートメッセージ / 非サポートメッセージ  
ブロックモード / 非ブロックモード
4. DSHEng5 の停止

C#言語で作られた**装置側**のプログラミングについてデモ・プログラムのソースファイルを参照しながら説明します。  
(デモプログラムの Solution File は `¥DSHEng5¥EngAppCsDemo¥Eng5AppCsDemo.sln` です。)

なお、説明チャートの中で参照される DSHEng5 クラスに関する説明書は以下の通りです。

Vol 番号	文書番号	内容
Vol-1	DSHENG5-19-30321-00	DSHEng5 GEM 通信エンジン説明書 Vol-1 エンジン起動・停止、通信確立関連クラス
Vol-2	DSHENG5-19-30322-00	変数情報関連クラス (EC, SV, DVVAL, CE, Report, Alarm)
Vol-3	DSHENG5-19-30323-00	プロセス情報関連クラス (PP, FPP, RECIPE, PRJ, CJ, CARRIER, SUBSTRATE)
Vol-4	DSHENG5-19-30324-00	SECS-II メッセージ送信クラス
Vol-5	DSHENG5-19-30325-00	SECS-II 通信メッセージ情報保存クラス
Vol-6	DSHENG5-19-30326-00	SECS-II 通信メッセージエンコード/デコード処理クラス

## 2. デモプログラムと DSEng5 エンジンの起動

以下、デモプログラム内で実行している処理を説明します。

### 2. 1 起動処理メイン - formMain.cs での処理

デモ・プログラムの、formMain.cs **エンジン開始** ボタンのクリックから始まります。(クラス名は formMain です。)

`start_engine()` 内部関数を使って、エンジン起動処理を行います。

`poll_class` クラス ( `poll.cs` ) のポーリング開始の準備もします。( `poll_class` はホストからの1次メッセージの受信と処理を行います。)

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
エンジン開始	<pre> public EngAPI eng_class;           // eng_class は、EngAPI の instance、EngAPI は Eng5Class.dll 内に存在 poll poll_class = new poll();     // メッセージ受信用 poll クラスは、poll.cs ファイル内に存在 int ei; string eq_cnf_file = @"..\YDSEng5YcnfYequip.cnf"; // EQ side configuration name string eq_comm_file = @"..\YcnfYcomm_EQ.def";    // EQ side HSMS comm def fil  private void btnStart_Click(object sender, EventArgs e) {     eng_class = new EngAPI();       // create EngAPI Instance     ...                             // (... はソース行の省略を意味している。)      ei = eng_class.start(eq_cnf_file, eq_comm_file, restore_SW, ref err_msg); // start engine      if ( ei ==0 ){         ei = setup_rsvd_var_and_rcv_messageID();     } </pre>	<p>formMain.cs poll.cs</p> <p>→ poll.cs</p>
予約変数の設定		

<p>受信メッセージ polling 準備 GEM 通信 Enable</p> <p>Enable の callback Handler</p>	<pre> if ( ei == 0 ) { <u>poll_class.start_poll()</u>;           // 1次メッセージ受信ポーリングを開始する。(アプリケーションレベルのポーリング)      class_EnableComm.Enable( <u>cback_enable</u>, 111) // GEM Communication Enable     ... }  //----- callback for GemEnable() ----- private static int <u>callback_enable</u>(int end_status, uint upara) {     DshLog.log(" ! enable callback() end_status = " + end_status.ToString() + "\n");     if (end_status == 0)     {         &lt; GEM 通信確立の処理 &gt;     } }  // Communication Enable 終了 callback private static class_CALLBACK.CallbackDefault cback_enable = new class_CALLBACK.CallbackDefault( <u>callback_enable</u> ); </pre>	
--	--	--

## 2. 2 setup\_rsvd\_var\_and\_rcv\_messageID() - 予約変数の設定と、受信1次メッセージの登録

- (1) DSHEng4 が必要とする予約変数 ID などを設定します。
- (2) APP が受信して処理する GEM SECS メッセージを登録します。
- (3) HOST 側の場合は、WP 処理で使用する CARID , RCPID, Process Job, Control Job の処理スケジュール情報ファイルを読み込みます。

<p>WP 処理スケジュール情報ファイルを読み込む</p> <p>予約変数の設定</p> <p>APP が処理したい SECS Msg 登録</p> <p>エラー検出ならば DSHEng5 を停止</p>	<pre> int setup_rsvd_var_and_rcv_message() {     if (SIDE == SIDE_HOST)           // HOST side ?     {         setup_host_job_list();       // setup Host WP processing Job Schedule     }     int ei = class_SetRsvdVar.set_reserved_variable(this); // set reserved variable ID      if (ei == 0)     {         ei = SECS2_MsgReg. reg_class.set_SECS2_msg(SIDE); // &lt;= 受信1次メッセージを登録する。     }      if (ei &lt; 0 ){         eng_class.stop();     }     return ei; } </pre>	<p>formmain.cs</p> <p>class_SECS2MsgReg.cs 次ページ</p>
--	--	---

## 2. 2. 1 class\_SetRsvdVar.set\_reserved\_variable() - 予約変数の処理

(1) 予約変数とは、APP が DSHEng5 に対し、DSHEng5 が処理するために知っておく必要な EC, SV, CE 変数の ID を DSHEng5 に登録します。

(2) APP は、DSHEng5 に対して class\_SetRsvdVar クラスの set\_reserved\_variable() メソッドを使っています。

予約変数 index の参照説明書 : DSHEng5 GEM 通信エンジン・クラス説明書 Vol-1 の 5. 1 class\_const クラス - 変数、CE 関連定数と予約変数

<p>CEID</p> <p>EC, SV</p> <p>その他</p>	<pre> public static int set_reserved_variable(formMain fm)     int ei = 0;     int x = 0;      // エラー発生時の位置の番号     while (true)     {         //----- 予約 CEID -----         x = x + 1;         ei = DSH_ENG.class_Reserved_V.set_reserved_CEID(class_const.CEX_RSV_COMMUNICATING, eng_id.CE_Communicating);         if (ei &lt; 0) { break; }         x = x + 1;         (中略)         //----- 予約変数(EC, SV) の登録 --- index に対する変数 ID 値 -----         ei = DSH_ENG.class_Reserved_V.set_reserved_ECID(class_const.ECX_RSV_MDLN, eng_id.EC_Mdln);         if (ei &lt; 0) { break; }         x = x + 1;         (中略)         ei = DSH_ENG.class_Reserved_V.set_reserved_ECID(class_const.ECX_RSV_SPOOL_ENABLE, eng_id.EC_SpoolEnable);         if (ei &lt; 0) { break; }         x = x + 1;         (以下省略)          break;     }     return ei; }         </pre>	<p>class_SetRsvdVar</p> <p>class_const に変数 index あります。</p>
--------------------------------------	---	--



## 2. 2. 2 set\_SECS2\_msg() - APPが受信し処理したいメッセージの設定

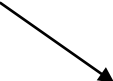
APPが受信し処理したいSECS-IIメッセージIDを設定します。装置/HOSTの指定によって分けて設定します。

	<pre>public static int set_SECS2_msg( int comm_side) {     int ei = 0;     while (true)     {         if (comm_side == formMain.SIDE_EQ)         {             if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(1, 15)) != 0) break;             if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(1, 17)) != 0) break;             (中略)         }         else         {             if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(5, 1)) != 0) break;             if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(6, 1)) != 0) break;             (中略)         }         if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(7, 1)) != 0) break;         if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(7, 3)) != 0) break;         (中略)     }     break; } return ei; }</pre>	SECS2_MsgReg クラス
EQ 向け msg	<pre>        if (comm_side == formMain.SIDE_EQ)         {             if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(1, 15)) != 0) break;             if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(1, 17)) != 0) break;             (中略)         }</pre>	class_TPRI_PASS クラスは DSHEng5 内 class
HOST 向け	<pre>        else         {             if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(5, 1)) != 0) break;             if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(6, 1)) != 0) break;             (中略)         }</pre>	
EQ & HOST	<pre>        if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(7, 1)) != 0) break;         if ((ei = class_TPRI_PASS.set_stream_func(7, 3)) != 0) break;         (中略)     }     break; } return ei; }</pre>	

## 2. 3 poll クラスのpoll スレッド DSHEng5 からの受信処理の準備

- (1) 相手装置が送信メッセージを受取ったらそれを APP に呼び出してもらうための Event Handler を DSHEng5 に設定しておきます。  
渡して受信メッセージ情報は、DSHMSG メッセージ構造体と、HSMS 通信で 1 次メッセージと 2 次メッセージの対応を取るためのトランザクション ID です。  
受取ったメッセージのためのキューを生成します。
- (2) キューに入ったメッセージを取り出し、それを処理するためのスレッドを生成し、起動します。

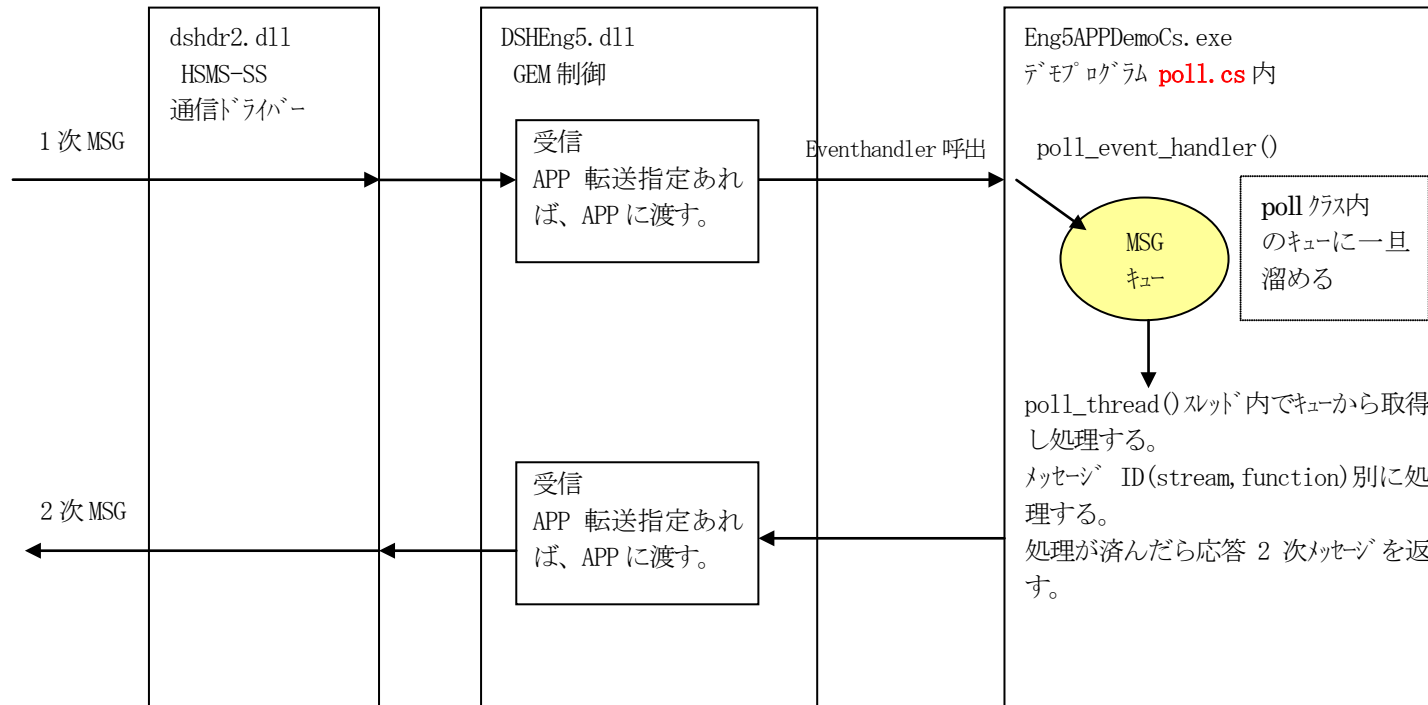
ポーリング開始は、以下の poll クラスの start\_poll() メソッドの呼び出しで行います。

msg 処理スレッドの起動	<pre>public void start_poll() {     abort_flag = 0;     this.thread = new Thread(new ThreadStart(this.poll_thread)); // Thread 生成     this.thread.Start(); // Thread 起動</pre>	poll class 3. 参照
msg 受信ハンドラーの登録	<pre>class_MsgPassPri.set_ev_handler(poll.poll_event); // start Msg Polling( poll event handler を渡す) }</pre>	受信通知イベントハンドラー登録
	<pre>public static class_CALLBACK.DshMsgPollEventHandler poll_event =     new class_CALLBACK.DshMsgPollEventHandler(poll_event_handler);</pre> 	poll_event 3. 参照

### 3. 1次メッセージ受信とメッセージのポーリング

ホストから送信される1次メッセージの取得関連のプログラミングについて説明します。

システム内におけるメッセージの受信の流れを図で示すと、以下のようになります。



### 3. 1 受信のためのポーリングの準備

2. 3で説明した内容になります。

### 3. 2 pollクラスの構成と機能 ( poll.cs )

デモプログラム内の poll クラスは、以下のような構成になっています。

#### (1) 開始/停止メソッド

```
start_poll() - 3. の poll_thread() スレッドを起動します。  
    this.thread = new Thread(new ThreadStart(this.poll_thread));    // Thread 生成  
    this.thread.Start();
```

stop\_poll() - poll\_thread() を終了させるためのメソッドです。フラグをセットして間接的にスレッドを停止させます。

#### (2) 主なプロパティ

Queue mlist - メッセージ受信ハンドラーで受信したメッセージを溜めるキュー。 Queue は .Net 提供クラス

#### (3) メッセージ受信イベントハンドラー

poll\_event\_handler() - DSHEng5 が 1 次メッセージを受信したときに、このハンドラーがコールされ、受信したメッセージ情報が引数として渡されます。受信したメッセージは、情報を POLL\_MSG 構造体に詰められ、プロパティに示した mlist キューに put します。

#### (4) ポーリングスレッド

poll\_thread() - mlist からメッセージを 1 個だけ取り出し、do\_poll\_msg\_proc() を使って個別に処理します。

#### (5) 個別メッセージ処理

do\_poll\_msg\_proc() - S1F5, S1F15 など個別にメッセージを処理します。

### 3.3 poll\_event\_handler() - メッセージ受信イベントハンドラー

Eng5Class.dll から渡される受信メッセージを受け取り、mlist キューに入れ、poll\_thread() スレッドに渡します。  
ソースをそのまま行を詰めて下に示します。

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
イベントハンドラー	<pre> static void poll_event_handler( uint trid, ref DSHMSG mmsg) {     POLL_MSG pmsg = new POLL_MSG();           // pmsg - 受信 msg 情報の保存に使用する。     IntPtr ptr = Marshal.AllocCoTaskMem(Marshal.SizeOf(pmsg)); // ptr - POLL_MSG 用メモ     IntPtr ptrm = Marshal.AllocCoTaskMem(Marshal.SizeOf(mmsg)); // ptrm - DSHMSG 用     DSHMSG hmsg = mmsg;     if (mmsg.length &gt; 0)                       // SECS-II msg text data あり?     {         hmsg.buffer = Marshal.AllocCoTaskMem(mmsg.length + 1); // msg text buffer の内容を別の memory に copy         WinAPI.CopyMemory(hmsg.buffer, mmsg.buffer, (uint)mmsg.length);     }     else     {         hmsg.buffer = IntPtr.Zero;             // no text     }     pmsg.trid = trid;                          // pmsg に渡す情報を set する。     Marshal.StructureToPtr(hmsg, ptrm, false); // hmsg =&gt; ptrm memory     pmsg.mmsg = ptrm;     Marshal.StructureToPtr(pmsg, ptr, false);  // pmsg =&gt; ptr memory     mlist.Enqueue(ptr);                       // Enqueue } </pre>	poll.cs

### 3. 4 poll\_thread() - 受信ポーリングスレッド

周期的に mlist に受信メッセージがあるかどうかを確かめ、あれば、そのメッセージを取り出し、 do\_poll\_msg\_proc() 内部関数にメッセージを渡し処理させる。

stop\_poll() メソッドで abort\_flag = 1 に設定されたら、スレッドを終了させる。

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
thread	<pre> private void poll_thread() {     IntPtr ptr;     while (abort_flag == 0)     {         if (mlist.Count == 0)                // any msg on queue ?         {             Thread.Sleep(10);         }         else                                  // yes         {             ptr = (IntPtr)mlist.Dequeue();             POLL_MSG pmsg = (POLL_MSG)Marshal.PtrToStructure( ptr, typeof(POLL_MSG));             DSHMSG mmsg = (DSHMSG)Marshal.PtrToStructure(pmsg.mmsg, typeof(DSHMSG));              do_poll_msg_proc(pmsg.trid, ref mmsg);    // 1個処理              if (mmsg.buffer != IntPtr.Zero) Marshal.FreeCoTaskMem(mmsg.buffer);             Marshal.FreeCoTaskMem(pmsg.mmsg);      // memory release             Marshal.FreeCoTaskMem(ptr);         }     } } </pre>	<p>poll.cs</p> <p>poll_event_handler() が put する。</p> <p>3.4 参照</p>

### 3. 5 do\_poll\_msg\_proc() - 受信メッセージ処理関数

以下のソースの通りです。

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
内部関数	<pre>private void do_poll_msg_proc(uint trid, ref DSHMSG mmsg) {     int s = mmsg.stream;           // S-stream     int f = mmsg.function;        // F-function      DshLog.log( "----&gt; S" + s.ToString() + "F" + f.ToString() + " trid = " + trid.ToString() + "----\n");     switch( s ){                  // Stream で分岐         case 1:                   // S1Fx             switch( f)            // Function で分岐             {                 case 15:                     slf15_proc.slf15( trid, ref mmsg);                     break;                 case 17:                     slf17_proc.slf17( trid, ref mmsg);                     break;             }             break;         case 2:                   // S2Fx             switch( f)             ...             ...         }     } }</pre>	<p>poll.cs</p> <p>slf15_proc.cs 参照 3.6 参照</p> <p>slf17_proc.cs 参照</p>

### 3. 6 s1f15\_proc() - 受信メッセージ処理例

簡単な処理例として、S1F15 の処理のソースを示す。

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
クラス内  static 関数 (method)	<pre> class s1f15_proc {     //----- S1F15 -----     public static void s1f15(uint trid, ref DSHMSG msg)     {         DshLog.log(" S1F15 : Offline Request\n");         int ei = 0;         int oflack = 0;         DSHMSG rmsg = new DSHMSG();         ei = class_S1F15.EncodeS1F16(ref rmsg, oflack);         &lt;ここで処理&gt;         ei = EngAPI.SendResponse(ref rmsg, (uint)trid);    // 応答メッセージ送信     } } </pre>	s1f15_proc.cs          S1F16 応答 Class 応答送信実行

応答は、EngAPI.SendResponse() を使用する。



### 3. 7 メッセージ受信クラスがサポートされていないメッセージの処理と応答処理

例として、S64F3, S64F4 メッセージを仮に定義し、その送受信処理をするプログラムについて説明します。(デモプログラムには存在しません。)

S64F3
L2
B[1] cmd
A[6] name

S64F4
L1
B[1] qck

参照

DSHEng5 GEM 通信エンジン・クラス説明書

Vol-4 SECS-II メッセージ送信クラス

18. ユーザ固有メッセージの送信ならびに応答メッセージの送信

S64F3 を受信して、APP がそれを処理するためには、2.2.2 で説明した `set_SECS2_msg()` を使って、S64F3 メッセージの登録をしておく必要があります。

メッセージは、DSHMSG 構造体であたえられます。データアイテムの取得には、HSMS クラスの `D_InitItemGet()`, `D_GetItem()` メソッドを使います。

(HSMS クラスのメソッドについては、DSHDR2 レベル 2 通信ドライバーのユーザマニュアルを参照ください。)

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
クラス内 static 関数 (method)	<pre> class s64f3_proc {     //----- S64F3 -----     public static void s64f3(uint trid, ref DSHMSG msg)     {         int n, ei;         byte cmd = 0;         int ack = 0;         string name = " ";         HSMS.D_InitItemGet( ref msg );         n = HSMS.D_GetItem( ref msg, HSMS.ICODE_L, IntPtr.Zero, 0 ); // L の値を n に取得         if ( n != 2 ){ &lt;error 処理&gt; }         n = HSMS.D_GetItem( ref msg, HSMS.ICODE_B, ref cmd, 1 ); // B[1]の値を cmd に取得         if ( n != 1 ){ &lt;error 処理&gt; } // データ数が 1 でなければならない。         n = HSMS.D_GetItem( ref msg, HSMS.ICODE_A, name, 6 ); // name を取得     } } </pre>	

	<pre> if ( n != 6 ) { &lt;error&gt; }     &lt;ここでメッセージの処理&gt; ack = 0;      &lt;S64F3 の処理結果 が ack にセットされている&gt;  DSHMSG rmsg = new DSHMSG(); // rmsg 生成 IntPtr buff = Marshal.AllocCoTaskMem( 32 ); // buff メモリ準備 rmsg.steam = 64; // stream, function, wbit, buffer, length 設定 rmsg.fuction = 4; rmsg.wbit = 0; rmsg.buffer = buff; rmsg.length = 32; HSMS.D_InitItemPut( ref rmsg ); // rmsg 初期化 ei = HSMS.D_PutItem( ref rmsg, HSMS.ICODE_L, IntPtr.Zero, 1 ); // L1 を put if ( ei &lt; 0 ) { &lt;error&gt;} ei = HSMS.D_PutItem( ref rmsg, HSMS.ICODE_B, ref ack, 1 ); // B1 を put if ( ei &lt; 0 ) { &lt;error&gt;} ei = EngAPI.SendResponse( ref rmsg, trid); // 応答メッセージ S64F4 送信 if ( ei != 0 ) { &lt;error&gt; } ... ... &lt;処理終了, error も含め&gt; Marshal.FreeCoTaskMem(buff); // buff メモリを開放     } } </pre>	<p>(次ページへ)</p> <p>S64F4 応答</p> <p>send_response() は static 関数</p>
--	---	---

## 4. 1 次メッセージの送信

標準でサポートしているメッセージと、サポートしていないメッセージの送信について説明します。

標準でサポートしているメッセージとして、S6F11 を、また、非標準サポートの例として、(実際にはサポートしていますが) S5F1 メッセージの送信についてどのようにプログラミングするか説明します。

### 4. 1 標準サポートメッセージの送信

標準サポートメッセージの送信は、個々のメッセージのため DSHEng5 通信エンジンの中に準備された送信クラス(class\_SendS6F11 クラスの Send\_S6F11() など)を使用します。

最初に送信クラスのインスタンスを生成、メッセージごとにパラメータの設定の必要があれば、メソッドを使ってプロパティ値を設定し、その上で送信メソッドを使って送信します。

送信モードには、ブロックモードと非ブロックモードの2つのモードがあります。S6F11 の送信に使用する class\_SendS6F11 クラスを例に説明します。

(1) **ブロックモード** – SendS6F11\_wait() メソッドを使用します。 (同期モードともいいます)

本モードでは、送信し、応答メッセージを受信するまでプログラムの制御は、SendS6F11\_wait() の位置でブロックします。そして、応答メッセージ受信まで、そこで待機することになります。

wp\_load.cs ファイルを参照し、説明します。

wp\_load.cs は、WP (Wafer Processing) のシミュレーションで、ロード制御を行うスレッドプログラムです。

(2) **非ブロックモード** – SendS6F11() メソッドを使用します。 (非同期モードともいいます。)

本モードでは、DSHEng5 エンジンに、送信を要求します。その際に応答メッセージを受信したら、エンジンに呼び出してもらうための callback 関数を指定して SendS6F11() メソッドを使って送信します。

すなわち、送信を要求した後、制御はすぐに戻ってきます。そのとき、要求が受け入れられたかどうかは戻り値に返ってきます。

formCE.cs ファイルを参照し、説明します。

formCE.cs では、CE 情報の操作も行います。 S6F11 の送信では、コンボボックスのリストから CEID を選択し、送信を行います。

#### 4. 1. 1 ブロックモード - S6F11 の送信

wp\_load.cs キャリアロード処理の中のプログラムを参照します。

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
関数呼出	<pre> // 送信関数 private int send_s6f11_wait(uint ceid) {     int ack = 0;     class_SendS6F11 s6f11_send = new class_SendS6F11();     int ei = s6f11_send.SendS6F11_wait(ceid, ref ack);     if ( ei = 0) ei = ack;     return ei; }  // WP load 処理スレッド void load_thread() {     while(.....){         ...         ei = send_s6f11_wait(eng_id.CE_ReadyToLoad); // CE_ReadyToLoad - eng_id.cs で定義される。ei に送信結果(ack)         if (ei != 0)         {             error_abort("S6F11 send error CEID = CE_ReadyToLoad");             break;         }         次の処理         ...         ...     } } </pre>	<p>wp_load.cs</p> <p>省略してあります。</p> <p>EQ_INFO.TXT のコンパイルで得られる。</p>

## 4. 1. 2 非ブロックモード - S6F11 の送信

formCE.cs CE(収集イベント)情報の処理の中の S6F11 送信の処理です。CEID は、cbCeid コンボボックスで指定選択された id\_list[]から取得します。

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
ボタン イベント通知 S6F11	<pre>private void btnNEvent_Click(object sender, EventArgs e) {     uint ceid = id_list[cbCeid.SelectedIndex];     if (cbBlock.SelectedIndex == 1)           // 送信 mode ?     {         ...     }     else     {         class_S6F11Send s6f11_class = new class_S6F11Send();    //----- nonblock mode - callback で終了を通知 -----         int ei = s6f11_class.send( ceid, cback_s6f11, 611);    // send S6F11         ...     } } //----- callback from send s6f11 ----- private static int callback_S6F11(int end_status, int ack, uint ceid, uint upara) {     ...     if (end_status == 0) {         // 正常終了時の Application の処理     }else{     }     return 0; } private static class_CALLBACK.callback_S6F12 cback_s6f11 = new class_CALLBACK.callback_S6F12(callback_S6F11);</pre>	formCE             delegate static にすること

## 4. 2 非標準メッセージの送信

DSHEng5 が標準メッセージとしてサポートしていないメッセージの送信方法について説明します。

非サポートメッセージ送信には、HSMS クラスの `D_InitItemPut()`、`D_PutItem()` メソッドと、EngAPI クラスの `send_request()` または `send_request_wait()` メソッドを使用します。全て `static` 関数です。(ここでは、HSHS、EngAPI クラスのインスタンス生成する必要はありません)

具体例は、デモプログラムの `formSendReq.cs` ファイルに、S5F1、S7F3、S1F1 の送信例が含まれています。ブロックモード、非ブロックモードを選択して、送信できるようになっています。

S5F1 について (S5F1 は標準サポートメッセージですが、例として使用します。) 以下示します。

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
ボタン 1次Msg 送信	<pre>private void btnMsgSend_Click(object sender, EventArgs e) {     EngAPI.M_AL.get(alid_list[cbAlid.SelectedIndex], ref al_class); // get al info      int on_off = cbOnOff.SelectedIndex;     if (on_off == 1) on_off = 0x80;     int ei = 0;     DSHMSG smsg = new DSHMSG();     DSHMSG rmsg = new DSHMSG();     IntPtr buff = Marshal.AllocCoTaskMem(1024);      smsg.wbit = 1;     smsg.stream = 5;     smsg.function = 1;     while (true)     {         smsg.buffer = buff;         smsg.length = 1024;     } }</pre>	formSendReq.cs

```

HSMS.D_InitItemPut(ref msg); // init msg

ei = HSMS.D_PutItem(ref msg, HSMS.ICODE_L, IntPtr.Zero, 3); // L-3
if (ei < 0) break;

int alcd = (int)al_class.alcd + on_off;
ei = HSMS.D_PutItem(ref msg, HSMS.ICODE_B, ref alcd, 1); // ALID
if (ei < 0) break;

uint alid = alid_list[cbAlid.SelectedIndex];
HSMS.D_PutItem(ref msg, HSMS.ICODE_U4, ref alid, 1); // ALID

ei = HSMS.D_PutItem(ref msg, HSMS.ICODE_A, al_class.altx, 40); // ALTX
break;
}
if (ei < 0)
{
    Marshal.FreeCoTaskMem(buff);
    DshLog.log(" !! Message setup error\r\n");
    return;
}
//-----
if (formMain.fm.get_send_mode() == 0) // non block mode ?
{
    ei = SendReqSxFy.SendRequest(ref msg, cback_request_s5f1, 501);
    if (ei < 0)
    {
        OutLog(" !! SendRequest() error\r\n");
    }
}
else // block mode
{

```

```

ei = SendReqSxFy.SendRequest_wait(ref smsg, ref rmsg);
OutLog(" S5F1 SendRequest_wait() ei=" + ei.ToString());
if ( ei == 0 ){
    disp_s5f2(ref rmsg);                // 応答 msg 表示
    HSMS_LIB.free_DSHMSG( ref rmsg ); // !! これを必ず実行すること。
}
}
}
Marshal.FreeCoTaskMem(buff);
}
//----- callback for SendRequest() -----
private static int callback_send_request_s5f1(int end_status, ref DSHMSG rmsg, uint upara)
{
    DshLog.log(" ! send_request callback() end_status = " + end_status.ToString() + "¥r¥n");
    if (end_status == 0)
    {
        disp_s5f2(ref rmsg);            // 応答 msg 表示
    }
    return 0;
}
private static class_CALLBACK.callback_send_request cback_request_s5f1 =
    new class_CALLBACK.callback_send_request(callback_send_request_s5f1);

```



## 5. デモプログラムの終了、DSHEng5 エンジンの終了

デモプログラムの終了処理、ならびに DSHEng5 エンジンの終了処理について説明します。

デモプログラム内における終了処理は、基本的に実行中である、以下のスレッドの終了

ポーリングスレッド

WP シミュレーション関連スレッド (wp\_load.cs, wp\_proc.cs, wp\_unload.cs )

その他( タイマーなど)

EngAPI は stop() メソッドで停止させます。

以下、formMain.cs の エンジン停止ボタンのクリックの処理で、ソースプログラムに沿って以下説明します。

種別	プログラム文	ソースファイル / 備考
ボタン	private void btnStop_Click(object sender, EventArgs e)	formMain.cs
エンジン停止	{	
	timer_hsms.Enabled = false; // stop timer	
	control_disable(); // disable control	
	poll_class.stop_poll(); // stop SECS-II message polling	poll.cs
	timer3.Enabled = false;	
	timer_hsms.Enabled = false;	
	btnStop.Enabled = false;	
	class_form_info.close_all_form(); // 全 child form を閉じる	以下 Child form を閉じる
	save_restore_flag(); // save restore_flag 2019-02-13 追加	
	eng_class.stop(); // Stop DSHEng5 Engine	DSHEng5 停止
	save_side(); // ホスト/装置 side 情報を 保存	

	<pre>btn_control(false); // operation btn disable  btnStart.Enabled = true;  btnStart.Focus(); OutLog(""); OutLog("---- Engine Stopped -- -----"); }</pre>	
--	--	--